

テーマ	『不登校児童生徒の保護者支援について』
-----	---------------------

1 達成に向けた手立て

- ①心理的支援と信頼関係の構築
 - ・保護者への心理的支援を重視し、共感的な相談関係を通じて安心感を提供した。
- ②支援観と基本方針の共有
 - ・登校をゴールとせず、「社会的自立」を見据えた支援観を保護者と共有した。
 - ・学校・家庭・地域の連携により、保護者や児童生徒を孤立させない支援体制を構築した。
- ③アセスメントと支援対象の把握
 - ・家庭環境のアセスメントを通じて、支援の必要性や課題を早期に把握した。
- ④保護者の参画と協働支援
 - ・ケース会議や支援計画に保護者を参画させ、協働による支援方針の形成を図った。
- ⑤関係機関との連携
 - ・校内外の関係機関と連携し、地域資源を活かした支援ネットワークを構築した。
- ⑥学校内支援体制の構築
 - ・教員とSSWが協力し、学校全体で柔軟な対応ができる支援体制を強化した。
- ⑦専門職の役割周知
 - ・専門職の役割や活動を広報（例：SSW通信）し、保護者や地域への理解促進を図った。

2 取組の成果と課題

成 果	課 題
①心理的安定の確保 ・心理的支援により、保護者の不安や孤立感が軽減され、肯定的な反応が多く得られた。そのことにより、子供の前向きな変化（登校、登校への関心・意欲の高まり、オンラインによる教員との交流等）につながった。	①実践的家庭支援の不足 ・家庭での具体的支援（生活リズム・親子関係づくりなど）が十分とは言えず、実践支援の強化が必要である。
②支援観の浸透と認識変容 ・『登校だけがゴールではない』という支援観が保護者に浸透し、前向きな視点が育まれた。	②地域格差と孤立感 ・地域による支援資源の格差や、保護者間のつながりの欠如による孤立感が課題として残る。
③保護者の主体的な参画 ・ケース会議や面談などを通じて、保護者が主体的に支援に参画する姿勢が育った。	③保護者参画の形式化 ・保護者参画の質に差があり、形式的な参加にとどまっているケースも見受けられた。
④教員の対応と児童生徒の変化 ・支援体制の柔軟性により、教員と児童生徒の関係改善や登校意欲の向上が見られた。	④教職員間における支援観の共有と理解促進 ・学校ごとの体制や状況の違いがあり、教職員間での支援観共有や理解促進が求められる。
⑤生活背景の把握と対応 ・支援対象の家庭背景（困窮・疾病等）をアセスメントにより把握し、適切な支援につなげた。	⑤保護者側の理解促進 ・父親の理解不足など、保護者の中でも支援に対する受容度に差があり、アプローチの工夫が必要。
⑥専門職の認知と支援体制の強化 ・SSW等の専門職が校内や地域に認知され、支援活動が可視化されたことで協力体制が強化された。	⑥支援体制の整備 ・学校によっては校内支援会議の在り方やメゾ的な支援体制づくりに課題が残っている。

3 次年度に向けて

①支援モデルの構築

- ・実践から抽出した支援方針を基に、再現可能な支援モデルの構築と普及を目指す。
- ・保護者同士のつながりを支えるため、ピアサポートや交流会の開催を推進する。

②保護者の参画強化

- ・保護者が納得・参画できるよう、参加型ケース会議の導入を検討する。

③教職員の組織的支援力の強化

- ・教職員全体への不登校支援に関する研修や支援観の共有を通じて、組織的支援力を強化する。

④進路支援の充実

- ・進路・学びの選択肢に関する情報提供を拡充し、将来像を描ける支援を充実させる。

⑤関係機関連携の強化

- ・福祉機関等との連携を強化し、必要な支援資源へのアクセスを円滑にする。

⑥困難事例への実践的アプローチの開発

- ・支援困難な家庭や保護者に対する新たなアプローチの手法を検討する。

⑦校内支援会議の改善

- ・校内支援会議の効果的運営とアセスメント・プランニング機能の向上を図る。